

取り付けましょう！

住宅用火災警報器の設置は義務です！！



まだ設置されていないおうち



設置場所



すでに設置されているおうち

お手入れしましょう

警報器にホコリが付くと火災を感知しにくくなります。汚れが目立ったら、乾いた布でふき取りましょう。

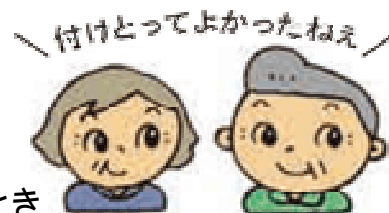
テストをしましょう

次の時は必ず作動テストをしてください。

- ・初めて取り付けるとき
- ・設置場所を移動したとき
- ・住警器の手入れをした後
- ・長い間留守にしたあと
- ・故障、電池切れが疑われるとき

テストはボタンを押したり、ひもを引いて行えます。

詳しくは製品の取扱説明書をご覧ください。



電池切れかな？

電池切れの時には音声でお知らせするか、ピッ...ピッ...と短い音が一定の間隔で鳴りますので、新しい電池に交換してください。

『あなたの命 家族の命を守るために』

富山県内における住宅用火災警報器の奏功例



- 1 90歳女性(3人家族、当時は1人)は台所のガスコンロで餅を煮ようと鍋をかけていたが、洗濯物を干そうとその場を離れたところ、煮物の鍋が空炊き状態となり、台所に設置してあった住宅用火災警報器が作動し、その警報音に気づいた女性は、直ぐにガスコンロの火を止め近所に助けを求め、近所の方が119番通報したもので、早期発見につながり、火災とならなかった。
- 2 26歳男性、25歳男性、22歳男性が住む共同住宅の一室。3人が外出中に和室のテーブルタップから出火し、内壁及び収容物を焼損した。隣室の住人が台所に設置してあった住宅用火災警報器の警報音で火災を知り、共用廊下に置いてあった消火器を使い消火したため大事に至らなかった。
- 3 69歳男性、67歳女性、37歳男性の3人が住む一般住宅。出勤前に37歳男性が2階の寝室でタバコを吸い、そのタバコ火の不始末によって出火、2階寝室を焼損したもの。
玄関先で作業をしていた69歳男性が、作業を終え玄関に入ると、階段上部に設置してある住宅用火災警報器の警報音が鳴っていたため、台所にある消火器を持って消火に向かうが、煙が充満しており消火は困難と判断し、直ちに119番通報したことにより、当該寝室一室のみの焼損にとどまった。
- 4 78歳女性(一人暮らし高齢者：一般住宅)が台所のガスコンロ上に鍋をかけ、その場を離れて別室で掃除をしていたところ、1階寝室に取り付けてある住宅用火災警報器が鳴動し、その音に気づいた家人が台所を確認したところ、鍋が空炊き状態となっており、直ぐにガスコンロの火を消し火災に至らなかったもの。

- 5 79歳女性(一人暮らし高齢者:長屋)がフライパンに水を入れ、コンロに火をつけその場を離れ、隣の部屋で居眠りしていたところ、1階寝室に設置してあった住宅用火災警報器が鳴動したのに気づき家人が台所を確認したところ、フライパンが空焚き状態となっており、直ぐにコンロの火を消したため火災に至らなかったもの。
- 6 60歳女性(一般住宅)が台所のガスコンロに鍋を置き、火をつけその場を離れ、外出したため過熱された鍋から煙が上がり、台所に設置してあった住宅用火災警報器が鳴動した。警報音に気づいた隣人数名が協力し、ガスコンロの火を止め、こげた鍋の処理をしたため、火災にはいたらなかったもの。
- 7 43歳男性(一般住宅:1世帯3名)の住宅付近に落雷が発生し、ブレーカーが落ち停電した。ブレーカーを復帰後、屋外を確認し異常がなかったため、屋内を確認しようと家の中に入ると、2階に設置してある住宅用火災警報器が鳴動しており、確認したところ天井付近に煙が漂っていたため、火災と判断し、直ちに119番通報したことにより、当該2階部分のみを焼損した火災にとどまったもの。
- 8 43歳男性(共同住宅)が就寝中に、掛布団と電気ストーブが何らかの原因で接触し布団が焦げたことにより、住宅用火災警報器が発報し、上階の住人が119番通報するとともに、本人も目が覚めたため、火災には至らなかったもの。
- 9 79歳女性(一人暮らし高齢者:住宅)が天ぷらを調理しようと天ぷら鍋に油を入れガスコンロに火を入れたところ、電話が鳴りその場を離れたことにより天ぷら鍋に火が入ったが、台所に設置してあった住宅用火災警報器が発報し、その音に気づいた家人が近くに置いてあった布をかけ大事に至らなかったもの。
- 10 30歳男性(共同住宅)がガスコンロに火をかけたのを忘れ、就寝したため、鍋が空焚き状態となったもの。隣人が住宅用火災警報器の警報音と煙の臭いに気づき、ベランダに出ると、隣の部屋の窓から煙が見えたため、隣の家のチャイムを鳴らし、大声で呼んだが、返事が無く119番通報し、到着した消防隊によりコンロの火を消したため大事に至らなかったもの。